

ドラマ・映画の聖地など 大きく変貌しつつある故郷 「工都尼崎」かつて集めた尼崎の資料等を懐かしく引っ張り出しました

「工都尼崎」源流たどる

現在の大物公園、小田南公園などに広がっていた大日本紡績尼崎工場の模型(左側が北)



「工都尼崎」の始まりは、1891(明治24)年に操業を開始した県内初の大紡績工場だった。その事務所だった「ユニチカ記念館」(尼崎市東本町)が今年、尼崎市の所有になったのに合わせ、市立歴史博物館(南城内)で企画展「尼崎紡績—工都尼崎のはじまり」が開かれている。ユニチカ記念館所蔵の23点を含む45点を展示。工場内での女性工員や子どもらの生活を物語るものもあり、往時の息遣いを感じさせる。9月3日まで。(広畑千春)

「尼崎紡績」の史料、歴史博物館で展示

合併で規模拡大 最大3000人従事、学校や病院も



尼崎紡績(現・ユニチカ)は、江戸期には城下町としてNHK朝の連続テレビ小説「あさが来た」のモデルで実業家の広岡浅子の夫、広岡信五郎が就いた。工場はれんが造り、隣接して、完成時には3万人が見学に訪れたという。

変身した尼崎の町の再活性化を期して設立。初代社長には、NHK朝の連続テレビ小説「あさが来た」のモデルで実業家の広岡浅子の夫、広岡信五郎が就いた。工場はれんが造り、隣接して、完成時には3万人が見学に訪れたという。当初は尼崎名産だった綿花の活用や旧尼崎藩士の失業対策も目指したが、英国産の機械は日本産の綿花に対応できず、工員も鹿児島などからの出稼ぎが中心に。一方で当時難しかった綿糸(中糸)の紡績に成功すると、同業他社を次々と合併して規模を拡大し、社名も「大日本紡績」と改めた。

最盛期には3千人を超える工員が働き、中には10歳以下の子ともいた。工場内には寄宿舎や食堂、小学校や病院まで整備され、歴史博物館の桃谷和則さん(61)は「完結したニ崎紡績開業10周年で撮影された従業員らの写真、10歳以下の子ともいた

た一つのユニチカだったと説明する。だが大正戦争で大半が焼失。戦後、縫製工場として再開したもの、1964(昭和39)年に廃止された。跡地は小田南公園や大物公園などになり、現在、プロ野球阪神タイガースの球場移転に伴う再整備が進む。

今年、市は解体の危機にあつた旧事務所の土地をユニチカから買い取り、建物の寄付を受けて現地保存を決めた。尼崎城や歴史博物館などと合わせた活用方法も模索しており、桃谷さんは「工場廃止からおよそ60年。変わりゆく尼崎のまちの原点を多くの人に知ってほしい」と話す。

無料。午前9時〜午後5時(入館は午後4時半まで)。月曜休館。8月13日、9月2日の午後2〜3時には学芸員によるギャラリートーク(先着20人)もある。同博物館 ☎06・6489・9801



尼崎紡績の全景を描いた史料。左手前にあるのが現在のユニチカ記念館(いずれも尼崎市立歴史博物館提供)

参考1. 鉄のモニュメント 鉄の街 尼崎 鉄鋼戦士の像と工都尼崎讃歌

<https://infokkna2.com/ironroad2/2022htm/iron18/R0410TetsuAmagasaki.pdf>

参考2. 図説 尼崎の歴史 <http://www.archives.city.amagasaki.hyogo.jp/chronicles/visual/>

参考3. 懐かしの住友鋼管3本煙突と工場地帯 <https://infokkna.com/KOMETANI2019/5sumikin.pdf>

参考4. 「尼の喧嘩祭」尼崎貴禰神社夏祭 <https://infokkna.com/ironroad/danjiri/1208kibune00.htm>